

平成29年度

シ ラ バ ス

桐生大学

別科 助産専攻

講義コード	80010001
講義名	助産学概論
(副題)	
開講責任部署	別科助産専攻
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
区分	基礎領域
必修/選択	必修
学年	

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 黒澤 やよい	指定なし

#### 授業の概要

助産とはなにか、その本質と意義、助産の歴史、助産の対象等の理解を基盤に、専門職としての助産師の業務、責務、倫理、役割への認識を深める。また助産師活動や助産師と教育・研究などについて教授する。母子保健や社会情勢と平行した助産師の活動及び教育、助産の歴史などを教授する。

#### 教育目標

助産の基本的理念、普遍的原理原則の理解をふまえて、助産師活動に対する現状と将来を展望できるように、母子保健の動向、助産や助産師活動の歴史、法的根拠、教育、倫理、研究活動の側面から理解する。助産師として就業してからも生涯教育が必要であることがわかる。

#### 到達目標

1. 助産の本質、意義について基本的理念、普遍的原理原則の視点で理解する。
2. 必要な助産師像について考える事ができ、将来展望を考えることができる。
3. 専門職助産師のあり方について学問的、法的、倫理的に理解する。
4. 母子保健の歴史と現状と助産師の役割を関連付けて理解する。
5. 日本の助産師教育の実情を知り、今後の展望について考えることができる。

#### 授業計画

	主題	授業内容	備考
第1回	助産の概念	出産の変遷と主体の変化 助産に関係する概念	
第2回	助産師の定義と業務/倫理	我が国の法の構造、助産の定義とその対象の理解、リプロダクティブヘルス/ライツと女性の健康にかかわる権利、ジェンダーの問題、人工妊娠中絶の現状	
第3回	助産師の業務と責務①	助産に関わる法律、母子保健の関係法規（医療法、保助看法、医師法、母子保健法、児童福祉法、地域保健法、戸籍法、刑法、民法、労働法、就業規則）	松原直樹
第4回	助産師の業務と責	産科医療補償制度の概要と事例、産科に関連した医療訴訟判例からの検討	松原直

	務②		樹
第5回	助産学を構成する理論	助産学を構成する理論とは、対象を理解するための理論	
第6回	助産の歴史と文化	助産の変遷、助産の文化論	
第7回	母子保健の動向	母子保健の歴史、動向と諸制度	
第8回	助産師教育/卒後教育	助産師教育の変遷と実態及び国際的な比較/及び卒後教育について	

### 教科書

医学書院 助産学講座 1 基礎助産学 助産学概論、我部山キヨ子ら編 我が国の母子保健（母子保健事業団）

### 参考書

国民衛生の動向、母子保健ハンドブック（母子保健事業財団） 母子保健の主なる統計（母子保健事業団）

### 成績評価

単位認定60点以上。出席・客観的試験（80%）、レポート（20%）による。

### 授業時間外の学習

助産とは何か、時間外でも疑問をもち他の科目と結びつけ、助産師としてのアイデンティティ形成の機会を設けること。

### 履修のポイント

助産とはなにかを知ること。分娩介助は助産技術の核であるものの、助産の全てではありません。助産師活動について基本的理念、普遍的な原理原則を知り、助産師としての基本姿勢を学ぶところで終結します。

### オフィス・アワー

平日の16：30-18時

講義コード	80020001
講義名	人間の性と生殖
(副題)	
開講責任部署	別科助産専攻
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
区分	基礎領域
必修/選択	必修
学年	

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 黒澤 やよい	指定なし

#### 授業の概要

いのちを育む機能を持つ女性のからだの構造と機能を理解し、健やかな発達と豊かな母性の発展をサポートするための知識を教授する。

#### 教育目標

人間の性と生殖について身体的、心理・社会的に理解を深め、助産師として必要な知識を習得する。

#### 到達目標

- ①女性の性・生殖に関する解剖生理的側面について理解する。
- ②女性の健康を守るためのセルフケアと健康管理方法について学ぶ。
- ③女性を取り巻く性的健康を脅かす健康問題について学ぶ。

#### 授業計画

	主題	授業内容
第1回	女性の体の仕組み①	生殖器の解剖と性差、分娩との関連性
第2回	女性の体の仕組み②	性周期とホルモン・妊娠とホルモン
第3回	女性のフィジカルアセスメント	内診・膣鏡診・細胞診・性感染症検査 超音波検査・栄養価評価
第4回	ライフサイクルとセクシュアリティ	思春期・成熟期 中高年期の女性の特徴とケア
第5回	性科学	性科学の概念とセクシュアリティ 性カウンセリング・妊娠と性行動
第6回	性感染症とヘルスプロモーション	性感染症の疫学、診断とケア、妊娠・出産・育児と性感染症
第7回	性と生殖をめぐる問題①	不妊・DV(ドメスティックバイオレンス) 月経障害
第8回	性と生殖をめぐる問題②	セクシュアルヘルスとリスク回避行動 性教育・家族計画と避妊法

#### 教科書

助産学講座2 基礎助産学 母子の基礎科学 医学書院、我部山キヨ子ら編 助産学講座3 基礎助産学

母子の健康科学 医学書院、我部山キヨ子ら編

参考書

メディックメディア「病気が見える」（婦人科編）

成績評価

単位認定60点以上。出欠と記録物、及び筆記試験、グループワークにおける発言の積極性、講義における積極性等も含めて60%以上の水準に達していること。講義、GWの取り組みなどの姿勢も考慮する。

授業時間外の学習

生殖器に関する解剖学・生理学および母性看護学等の復習とまとめを行う。

オフィス・アワー

9～18時の在室時 kurosawa-ya@kiryu-u.ac.jp

講義コード	80030001
講義名	妊娠・分娩・産褥の生理
(副題)	
開講責任部署	別科助産専攻
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
区分	基礎領域
必修/選択	必修
学年	

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 黒澤 やよい	指定なし

#### 授業の概要

妊娠・分娩・産褥の生理的経過を理解し、各時期の母子に起こる生理的変化に対応するための基盤となる知識を教授する。また正常経過を知る事により、正常から逸脱する可能性があること、逸脱していることが判断できるための知識を関連づけて学ぶ。

#### 教育目標

基礎看護教育での学びを基盤に、助産をするうえで必要な解剖、生理的な知識を深く理解する。正常経過をたどる妊産褥婦のケアに際して、根拠となる知識を活用してアセスメントできることを目的とする。また解剖生理的な知識のなかで、身体的な経過が正常か異常かの見極めができる知識の習得を目的とする。

#### 到達目標

1. 胎児の発育と妊娠の成立について学ぶ。 2. 妊娠の経過に伴う母体の変化を学ぶ。 3. 分娩の機序と母子に及ぼす影響を学ぶ。 4. 産褥の退行性変化と進行性変化を学ぶ 5. 各期に起こりやすい逸脱と観察の必要性を学ぶ。

#### 授業計画

	主題	授業内容	備考
第1回	胎児の成長と発達、胎児付属物等について	初期発生と器官形成、胎児の発育と生理、胎児付属物の形態と機能、臨界期等	黒澤やよい
第2回	妊娠の成立と維持	妊娠の成立、妊娠成立後の母体の変化、ホルモン動態、	黒澤やよい
第3回	妊娠経過に応じた母体の変化	妊娠時期に応じた母体の生理的変化と正常な妊娠経過（精神的な変化等も含む）について	黒澤やよい
第4回	分娩の生理①	分娩の概念・分娩の3要素	古賀裕子
第5回	分娩の生理②	分娩の経過と所要時間・分娩の機序①	古賀裕子
第6回	分娩の生理③	分娩の機序②、分娩が母体・胎児に及ぼす影響	古賀

			裕子
第7回	産褥期の生理①	産褥期の身体的変化、全身の変化	木村 優子
第8回	産褥期の生理②	退行性変化、進行性変化、性周期の再開	木村 優子

### 教科書

助産学講座5,6,7,8助産診断・技術学Ⅰ、Ⅱ 妊娠期、分娩期・産褥期、医学書院、医学書院 助産学講座2、基礎助産学 母子の基礎科学、我部山キヨ子ら編 プリンシプル産婦人科学 武谷雄二他

### 参考書

メディックメディア「病が見える」（産科編）

### 成績評価

単位認定60点以上。この分野の国家試験を意識した内容での筆記試験とする。

### 授業時間外の学習

生殖器に関する解剖学・生理学および母性看護学等の復習とまとめ

### 履修のポイント

知識を暗記するのではなく、診断・ケアの根拠となるように学ぶこと。

### オフィス・アワー

9～18時の在室時 kurosawa-ya@kiryu-u.ac.jp

講義コード	80060001
講義名	母子の栄養科学
(副題)	
開講責任部署	別科助産専攻
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
区分	
必修/選択	
学年	

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 旭 久美子	指定なし

#### 授業の概要

妊娠期、授乳期、新生児期、乳児期、幼児期、学童期、思春期、の各ライフステージについて生理的・精神的特徴を踏まえ、栄養状態の変化、栄養アセスメントの方法、栄養ケアのあり方について講述する。特に妊娠期・授乳期は生涯にわたる基礎作りのステージであるので、母子の栄養管理につて学習する。また、栄養アセスメントに必要な食事摂取基準(2015年度版)についても講述する。

#### 教育目標

助産師として妊婦・授乳婦に指導する場面で、必要な母子の栄養についての基礎知識を修得することを目標とする。

#### 到達目標

1. 母子のアセスメントを踏まえて、適切な栄養について理解する。
2. 食事摂取基準を理解する。

#### 授業計画

	主題	授業内容	備考
第1回	母子の栄養	妊産婦の食事バランスガイドの活用	食事バランスガイド
第2回	母子の栄養	妊婦の病態と栄養管理	妊産婦のための食生活指針
第3回	母子の栄養	妊婦の病態と栄養管理	妊産婦のための食事バランスガイド
第4回	母子の栄養	出産時の栄養管理	
第5回	母子の栄養	授乳婦の病態と栄養管理	
第6回	母子の栄養	乳幼児の栄養管理・思春期の栄養管理	
第7回	食事摂取基準①	食事摂取基準(2015年版)策定の基本的事項	
第8回	食事摂取基準②	食事摂取基準(2015年版)活用に関する基本的事項	

#### 教科書

応用栄養学(第4版) 灘本知憲・宮谷秀一編集(化学同人)



参考書
食事摂取基準（2015年版）
成績評価
単位認定 60点以上 前期定期試験（定期試験70%、提出物30%を総合して評価する）
授業時間外の学習
課題を行うこと。
履修のポイント
復習と予習を行うこと
オフィス・アワー
月・火・水・金曜日の昼休み、11号館18研究室にて対応

講義コード	80070001
講義名	母性父性の心理・社会学
(副題)	
開講責任部署	別科助産専攻
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
区分	基礎領域
必修/選択	必修
学年	1学年

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 篠原 貴子	指定なし

#### 授業の概要

女性のライフサイクルにおける大きな節目となる妊娠前後の女性が抱える問題に関して、心理学的・社会的側面から検討する。特に、母子関係のあり方を中心として、女性のメンタルヘルス、父親の役割と育児への関わり方、子どもの虐待、ドメスティックバイオレンス、カップル関係、育児支援に関する問題を取り上げると共に、近代以降の家族の歴史についても扱う。

#### 教育目標

母性・父性に関する知識を学び、妊娠婦として女性の心理的特徴・社会的役割についての理解を深め、助産師としての実践に応用できることを目的とする。

#### 到達目標

母性・父性に関する理解を深め、母子関係の形成に生じる心理学的理論や問題の背景に対する知識を学び、それらの問題に対する実態を認識、把握することで、問題解決に向けた支援のあり方を考える力を培う。

#### 授業計画

	主題	授業内容
第1回	イントロダクション	母性・父性の研究、女性のライフサイクル
第2回	女性のメンタルヘルス	妊娠と出産をめぐるメンタルヘルス
第3回	親子関係の問題Ⅰ	母子関係の理論
第4回	親子関係の問題Ⅱ	母子関係における問題と父親の役割
第5回	家族の問題	子どもの虐待、カップル関係
第6回	家族と社会	近代以後の家族の歴史
第7回	親子関係の援助	問題の発見と子育て支援
第8回	まとめ	課題と展望

#### 教科書

助産学講座4 基礎助産学〔4〕母子の心理・社会学 医学書院

#### 参考書

授業時に随時紹介

成績評価
単位認定60点以上。筆記試験、授業中の態度、リアクションペーパーで総合評価を行う。
授業時間外の学習
授業内容に関して、意欲的に学習する。
オフィス・アワー
授業日の、授業開始前もしくは終了後に教室等で相談に応じます。

講義コード	80080001
講義名	助産診断・技術学概論
(副題)	
開講責任部署	別科助産専攻
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
区分	
必修/選択	必修
学年	

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 古賀 裕子	指定なし

#### 授業の概要

助産診断・技術学は助産学を構成する重要な柱の一つである。ここでは助産診断学、技術学に大別し、助産師の専門職性と合わせて概説する。妊娠分娩産褥は本来ウェルネス型診断を用いることでよりレベルの高い状態への変化、良好な状態の維持に有効で対症のQOLを向上させる。ウェルネス志向とは異常の早期発見という視点から入らず、まず対象の強みに着目し、正常経過をたどれるかどうかの診断をし、逸脱しそうな場合は助産師のケア、指導で逸脱せずに経過できるかどうかを見極めると一連の思考過程を学ぶことであり、異常を見逃すことではない。妊産婦の強みに視点をあて問題や課題が無い場合でもより良い状態が維持できるようにケア計画を立案するため、質の高いケアが提供できる。講義ではこうした診断の視点と展開の方法の枠組みについて教授し、各論において事例をもとに展開する方法を学ぶための橋渡しとする。助産技術では助産師が法的に独自で判断して行う技術とその到達度について触れ、助産師教育で求められる助産師の役割と機能についても教授する。

#### 教育目標

妊娠、分娩、産褥の各時期における思考過程（助産過程）について理解する。また一連の助産過程に基づく助産技術について理解する。

#### 到達目標

1. 助産師の専門職性と診断との関係を理解する。
2. 助産診断が助産師の職能特有のものであること、看護診断、医学診断との境界域や共同問題について理解する。
3. 一連の助産過程（診断過程、実践過程）の展開の方法がわかる。
4. マタニティサイクルの助産診断ではウェルネス型診断を中心に理解する。
5. 正常域との境界線が明確に診断できることの重要性を理解する。
6. 各論では事例を用いた助産過程へと発展できる。

#### 授業計画

#### 教科書

自作資料。医学書院 助産学講座6 助産診断・技術学II、我部山キヨ子ら編

#### 参考書

日本看護協会出版 助産学大系第2版 助産診断・技術学I、青木康子ら編

#### 成績評価

単位認定 60点以上 出席状況、定期試験で60%以上の得点で単位認定とする。

## 授業時間外の学習

課題をクリアするためには時間外で看護診断、看護過程などの復習が必須。

## 履修のポイント

対象者に則した助産過程を展開する意義及びケアを実践するための助産技術を理解し、それぞれの時期の対象者の助産過程が展開できるための基礎とする。助産診断と助産技術の関係性が強く、技術の裏付けには診断があることを理解する。課外での予習は必須で、1回毎の講義の復習、次回の予習をもって理解を深める。

講義コード	80090001
講義名	助産診断学
(副題)	
開講責任部署	別科助産専攻
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
区分	実践領域
必修/選択	必修
学年	

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 黒澤 やよい	指定なし

#### 授業の概要

妊娠期、分娩期、産褥期/新生児期の助産過程について教授する。ここではまず一つの事例において情報を統合して診断するまでの思考過程を実例をあげて教授し、まずはグループで助産過程を展開し、個人でも助産過程が展開できるように教授する。分娩期においては知識は予習参加型とし、講義ではOSCE（オスキー、Objective Structured Clinical Examination）に準じた方式を取り入れ、グループディスカッションを基本でグループ討議をし、助産過程は個人で行う。正常の逸脱が予測される場合はケアや指導で解決できるように計画し、正常を逸脱した場合は医師の共同問題として看護計画を立案できる。大切な観察の視点、情報の解釈と統合の方法、ケアの計画及び修正、ケアを実施した場合の評価、考察についても実例をあげて説明し、助産学実習において実践し、助産師としての視点で実践できる基本とする。異常症例についてはハイリスクに関する講義で症状など観察とケアを学習し、助産師の視点で妊産婦の全体像をとらえながらケア実践できるようにする。

#### 教育目標

1. 妊娠、分娩、産褥・新生児期の一連の助産過程を展開できる。 2. 正常を逸脱する可能性がある場合、必要な保健指導を企画・展開できる。 3. 正常を逸脱した場合でも医師との共同問題としての看護過程を展開することができる

#### 到達目標

1. 講義ではロールプレイ、実在のペーパーシミュレーションの事例を通して診断、ケアプランが立案できる。 2. ケアプランを実施した場合の実例をもとに、評価、考察を行い、プランの修正ができる。 3. ハイリスクの場合は他の講義で学んだハイリスクの観察のための知識を活かし、看護者がすべきケアを学ぶ。

#### 授業計画

	主題	授業内容	備考
第1回	妊娠期の助産過程の特徴	妊娠各期における一連の助産過程の考え方、情報収集方法	黒澤やよい
第2回	妊娠期の助産過程①	妊妊娠期の特徴と助産診断について 妊娠期診断指標とは 事例提示、演習の進め方	黒澤やよい
		妊娠各期のアセスメントと診断（初期）（中	黒澤

第3回	妊娠期の助産過程②	期) (後期) (末期：分娩直前)	やよい
第4回	妊娠期の助産過程③	妊娠各期のアセスメントと診断発表と解説	黒澤やよい
第5回	妊娠期の助産過程④	妊娠各期の診断に基づくケアプランの作成	黒澤やよい
第6回	妊娠期の助産過程⑤	妊娠各期の診断に基づくケアプランの発表と解説	黒澤やよい
第7回	妊娠期の助産過程⑥	妊娠各期の診断に基づくケアプランの発表と解説	黒澤やよい
第8回	妊娠期の助産過程⑦	事例の看護過程展開：実施、評価の方法	黒澤やよい
第9回	妊娠期のマイナートラブルの助産過程	助産計画：娠期に起こりやすいマイナートラブルの予防と対処について	黒澤やよい
第10回	分娩直前期の助産過程	妊娠34週以降の助産計画	黒澤やよい
第11回	分娩期の助産診断について①	正常分娩の情報収集とアセスメント、分娩の予測/診断とケアの一連の過程について（初産婦の模擬事例）	古賀裕子
第12回	分娩期の助産診断について②	正常分娩の情報収集とアセスメント、分娩の予測/診断とケアの一連の過程について（初産婦の模擬事例）	古賀裕子
第13回	事例展開（前期破水）①	前期破水の事例展開/診断とケアについての討議	古賀裕子
第14回	事例展開（前期破水）②	前期破水の事例展開/診断とケアについての討議	古賀裕子
第15回	事例展開（微弱陣痛/促進）①	微弱陣痛の事例展開/診断とケアについての討議	古賀裕子
第16回	事例展開（微弱陣痛/促進）②	微弱陣痛の事例展開/診断とケアについての討議	古賀裕子
第17回	事例展開（経過が早い初産婦/巨大児/予定日超過）①	経過が早い産婦の事例展開/討議	古賀裕子
第18回	事例展開（経過が早い初産婦/巨大児/予定日超過）②	経過が早い産婦の事例展開/討議	古賀裕子
第19回	産科手術 帝王切開	帝王切開/無痛分娩、	古賀裕子
第20回	正常逸脱の事例の助産診断（医師との共同問題と看護ケア）①	分娩機転などの異常（回旋異常、不正軸進入、胎位異常/骨盤位）	古賀裕子
第21回	正常逸脱の事例の助産診断（医師との共同問題と看護ケア）②	分娩経過中の逸脱 出血因子（弛緩出血、子宮手術後 癒着胎盤）	木村優子
第22回	正常逸脱の事例の助産診断（医師との共同問題と看護	母体合併症（妊娠高血圧症、妊娠糖尿病）/ 異	黒澤やよ

	ケア) ③	常分娩 (多胎、IUGR) 等の診断とケア	い
第23回	産褥期の助産診断①	褥婦の助産診断	木村優子
第24回	産褥期の助産診断②	褥婦の助産診断	木村優子
第25回	新生児期の助産診断	新生児期の助産診断	木村優子
第26回	母子を統合した助産診断①	助産過程の展開 (産褥期) GW	木村優子
第27回	母子を統合した助産診断②	助産過程の展開 (産褥期) GW	木村優子
第28回	母子を統合した助産診断③	助産過程の展開 (産褥期) GW	木村優子
第29回	NICUにおける新生児のケア①	正常を逸脱した新生児のケアの実際を学ぶ	生方和美
第30回	NICUにおける新生児のケア②	正常を逸脱した新生児のケアの実際を学ぶ	生方和美

### 教科書

医学書院 助産学講座6,7,8 助産診断・技術学II (妊娠期、分娩期、産褥期) 我部山キヨ子ら編  
 新生児プリンシプル産婦人科学 武谷雄二他

### 参考書

ウェルネスからみた母性看護過程 医学書院、今日の助産、北川真理子、南江堂

### 成績評価

単位認定60点以上。提出びつの評価とともに、国家試験出題基準も考慮した筆記試験による。

### 授業時間外の学習

分娩期の助産診断においては予習参加型の学習を期待する。個人で事例の助産過程を展開し、最後に提出する。

### 履修のポイント

助産学実習で必須となる思考過程であり、ケアに必要な判断力を養う科目である。実際の妊産婦の事例を用いてグループワークから次第に個人で助産過程を展開できるようにし、助産過程のポイントが分かるように講義を展開する。展開したものについて一定の水準まで到達できない場合は個人指導する場合がある。

### オフィス・アワー

16:30~18時までの研究室で相談に応じる。



講義コード	80100001
講義名	助産技術学
(副題)	
開講責任部署	別科助産専攻
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
区分	実践領域
必修/選択	必修
学年	

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 木村 優子	指定なし

#### 授業の概要

周産期の助産技術助産診断とケアに必要な技術をEMB、NBMの視点から演習を通して習得する。助産技術学は診断学と切り離すことができない分野であり、常に助産診断と並行した技術が用いられることを教授する。計測ができるだけでなく計測値や観察した事項をアセスメントしながら次の実践ができることが大切である。また緊急時、異常時においては、ハイリスク妊娠分娩産褥で学んだ知識を観察の視点とし、ここでは看護者がとるべき行動についても教授する。分娩期においては知識に関しては予習のうえ、演習ではOSCE（オスキー、Objective Structured Clinical Examination）に準じた方式を取り入れ、グループワークを基本とする。

#### 教育目標

妊娠期、分娩、産褥期、新生児期の助産技術の基本を学び、EBMを理解し、実践できる。

#### 到達目標

1. 妊娠期では妊婦の健康診査に必要な助産技術、分娩期では産婦の分娩介助を中心とした技術、産褥期、新生児期では産後の母体、新生児観察のために必要な助産技術を習得する。2. それぞれのEBMを理解し、助産診断に基づいて実践できる。3. 妊娠期では超音波断層撮影を体験する。4. 異常、緊急時におけるの技術を学び、具体的なイメージがわかる。

#### 授業計画

	主題	授業内容	備考
第1回	妊婦の健康診査と観察・技術①	問診と妊婦健診の技術（骨盤計測・腹囲・子宮底測定、胎児触診法、血圧・体重・検尿・心音測定、モニター装着、内診介助）	黒澤
第2回	妊婦の健康診査と観察・技術②	問診と妊婦健診の技術（骨盤計測・腹囲・子宮底測定、胎児触診法、血圧・体重・検尿・心音測定、モニター装着、内診介助）	黒澤
第3回	妊婦の健康診査と観察・技術③	演習 腹囲測定、子宮底測定、NST、児心音聴取、レオポルド触診法、着帯、骨盤位矯正法、骨盤計測	黒澤・木村・古賀
第4回	妊婦の健康診査と観察・技術④	演習 腹囲測定、子宮底測定、NST、児心音聴取、レオポルド触診法、着帯、骨盤位矯正法、骨盤計測	黒澤・木村・古賀
		演習	

第5回	妊娠期の超音波診断技術①	妊娠期の超音波診断の実際について (操作方法と画像診断の説明)	矢島
第6回	妊娠期の超音波診断技術②	演習 妊娠期の超音波診断の実際について (操作方法と画像診断の説明)	矢島
第7回	NST・CTGモニターについて	胎児心拍モニタリングの実際と判読方法	黒澤
第8回	分娩期の診察技術	産婦の観察について；外診、内診技法（講義）	古賀
第9回	内診技術	内診の技術（演習）	古賀
第10回	分娩介助技術①	一連の分娩経過と技術（講義・DVD）	古賀
第11回	分娩介助技術②	分娩介助法（演習用DVD）、分娩環境整備と物品	古賀
第12回	分娩介助の実際①	分娩介助の実際 解説・demonstration	古賀・ 黒澤・ 木村
第13回	分娩介助の実際②	分娩介助の実際 解説・demonstration	古賀・ 黒澤・ 木村
第14回	分娩介助の実際③	分娩介助演習	黒澤・ 木村・ 古賀
第15回	分娩介助の実際④	分娩介助演習	黒澤・ 木村・ 古賀
第16回	分娩と産痛緩和	呼吸法とリラクゼーション、補助動作、マッサージ 他	古賀
第17回	分娩期の診断と技術	産婦のアセスメント/分娩4期観察とセルフケア指導	古賀
第18回	胎盤/出血量等のアセスメント	間接介助 胎盤と出血量の測定（講義と演習）	木村
第19回	産道の損傷への対処とケア/フリースタイル分娩①	会陰切開と自然裂傷 分娩期の縫合技術（講義・演習）/フリースタイル分娩（DVD）	黒澤
第20回	フリースタイル分娩介助②	ファントムを用いて実際フリースタイル分娩介助を行う	間中
第21回	産褥期の技術①	乳房の観察と診断技術 授乳技術と乳房ケア	木村
第22回	産褥期の技術②	全身の回復と診断	木村
第23回	産褥期の技術③	子宮復古の観察と対処	木村
第24回	産褥期の技術④	バースレビューの意義と方法	木村
第25回	新生児の診断援助技術①	出生直後からの新生児の観察技術・計測とケア	木村
第26回	新生児の診断援助技術②	出生直後からの新生児の観察技術・計測とケア	木村
第27回	育児援助技術①	演習 新生児のバイタルサインの測定、身体計測、頭部計測 沐浴指導、哺乳介助	木村・ 黒澤・ 古賀
28		演習 新生児のバイタルサインの測定、身体計測、頭部計	木村・

第 回	育児援助技術②	測 沐浴指導、哺乳瓶の使い方	黒澤・ 古賀
第29回	産褥期の援助技術①	演習 子宮底の測定、子宮収縮状態の観察、ラッチオン、 ポジショニング、乳房マッサージ、搾乳器の使い 方、母乳パットの使い方	木村・ 黒澤・ 古賀
第30回	産褥期の援助技術②	演習 子宮底の測定、子宮収縮状態の観察、ラッチオン、 ポジショニング、乳房マッサージ、搾乳器の使い 方、母乳パットの使い方	木村・ 黒澤・ 古賀

#### 教科書

医学書院 助産学講座6,7,8 助産診断・技術学Ⅱ（妊娠期、分娩期、産褥期）我部山キヨ子ら編  
 メディカルビュー 分娩の仕組みと介助法 竹田省 高橋真理編、プリンシプル産婦人科学 武谷雄  
 二他  
 助産学講座 3 基礎助産学 3 母子の健康科学

#### 参考書

助産師のためのフィジカルエグザミネーション、大石時子 医学書院 写真でわかる助産技術 平澤  
 美恵子 インターメディカ

#### 成績評価

単位認定 60点以上  
 実技テスト（分娩介助）と筆記試験

#### 授業時間外の学習

分娩期の助産技術においては時間外で演習を期待する。助産診断に基づく演習をするため予習参  
 加が必須。

#### 履修のポイント

助産学実習で用いる技術として必修項目である。演習時は白衣着用で身だしなみも注意するこ  
 と。

講義コード	80110001
講義名	保健指導技術概論
(副題)	
開講責任部署	別科助産専攻
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
区分	実践領域
必修/選択	必修
学年	

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 木村 優子	指定なし

#### 授業の概要

健康問題に関連した保健指導、相談指導、学級活動の基本となるコミュニケーション、相談技法、教育技法等の概念、意義を教授し、集団指導、個人指導の企画をするために必要な基礎を教授する。また保健指導における助産師に期待される姿勢を考える。保健指導の時期別各論で保健指導の展開につなげられるように教授する。

#### 教育目標

助産師活動における個人指導、集団指導の概念を理解し、適切な方法での企画、コミュニケーション技法を習得する。

#### 到達目標

1. 保健指導の理論、目的、方法について理解する。2. 個人指導において個別性を考慮したインタビュー方法を学び、情報収集をすることができる。3. 個人指導の特徴が理解でき、各論における妊娠中期～産褥1ヶ月までの指導計画に移行できる。4. 集団指導の特徴が理解でき集団指導を企画展開する技法を修得できる。5. 助産過程に基づく対象に合わせた保健指導の指導案、媒体など一連の保健指導過程を理解する。6. 助産師、指導者として対象者に対する指導におけるコミュニケーション、礼節を踏まえた関わり方について考えることができる。

#### 授業計画

	主題	授業内容
第1回	助産師による保健指導	目的・種類・対象・方法・留意点（教育・相談、指導）
第2回	健康教育の準備	目標の設定・企画書について
第3回	健康教育の準備	指導案の作成方法・指導媒体の作成について
第4回	集団指導の展開	演習 演習内容の説明 「妊娠6～7か月の妊婦を対象にした集団指導」を企画・運営（企画書は募集・広報活動も考える） 内容の検討
第5回	集団指導の展開	演習 体の管理を中心に3グループに分かれて実際に指導案を作成する （誘導・受付・アイスブレイク・実際・評価まで）

		1. 栄養の大切さ・体重管理 2. 姿勢・腰痛・体操 3. 貧血～原因・合併症・産むための身体作り～
第6回	集団指導の展開	演習 指導案の作成
第7回	集団指導の展開	演習 指導媒体の作成
第8回	集団指導の展開	演習 指導媒体の作成 保健指導技術 第14回と第15回で発表 1グループの持ち時間 20分前後 発表後、まとめと振り返り

## 教科書

医学書院 助産学講座5 助産診断・技術学Ⅰ

## 参考書

丸善プラネット出版、参加型マタニティクラスBOOK 戸田律子 医学書院

## 成績評価

単位認定 60点以上

出席状況、グループワークでの積極性、協調性、基礎理論の習得状況を試験、レポートなどから評価する。

## 授業時間外の学習

指導に必要な具体的な内容を調べる。企画書・指導案の作成。

## 履修のポイント

保健指導の指導案立案以前に企画をするところが非常に大切になる。特に集団指導の展開においてはこのことが理解されていないと指導計画は成功しない。

## オフィス・アワー

火曜日～木曜日

講義コード	80120001						
講義名	保健指導技術						
(副題)							
開講責任部署	別科助産専攻						
講義開講時期	前期						
講義区分	演習						
基準単位数	2						
代表曜日							
代表時限							
区分	実践領域						
必修/選択	必修						
学年							
担当教員							
<table border="1"> <thead> <tr><th>職種</th><th>氏名</th><th>所属</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>教員</td><td>◎ 黒澤 やよい</td><td>指定なし</td></tr> </tbody> </table>		職種	氏名	所属	教員	◎ 黒澤 やよい	指定なし
職種	氏名	所属					
教員	◎ 黒澤 やよい	指定なし					

### 授業の概要

妊娠～出産、育児および女性の性と生殖ははウェルネス診断が基本である。従ってウェルネス志向の助産過程にもとづき、まずは正常に経過できているかどうかを診断し、異常に傾きそうな問題或は課題があれば保健指導によって異常に傾くことを回避し、問題がない場合はよりよい状態または良い状態を維持するための保健指導の実際を学ぶ。個人指導においては助産診断に基づく保健指導の立案の方法、及び集団指導の企画、運営、展開の演習を行う。順序として最初に集団指導で展開するための方法を学び、次に助産過程事例に基づき、社会的、精神的な部分も含めた個別性を考慮する方法について学ぶ。

### 教育目標

助産師として必要な個人・集団指導の企画・展開方法を習得する。また対象者に応じて保健指導技術の方法を選択し、効果的に展開することができる。

### 到達目標

1. 保健指導の企画、展開の方法を学び、対象者に応じた指導が実施できる。 2. 思春期、更年期等の女性の健康講座などを企画する方法を学ぶ。 3. 妊娠期、産褥期・新生児期の保健指導案を立案することができる。 4. 妊娠期、産褥期・新生児期の保健指導案に基づいて展開することができる。

### 授業計画

	主題	授業内容	備考
第1回	初診時の問診	初診時における問診・初回インタビューの実際について	黒澤やよい
第2回	妊娠初期個別指導	情報に基づいた妊娠初期指導案作成と実施	黒澤やよい
第3回	妊婦の視点で物を見る①	情報収集の方法とスーパーマーケットツーリズム	黒澤やよい
第4回	妊婦の視点で物を見る②	情報収集の方法とスーパーマーケットツーリズム	黒澤やよい
第5回	妊婦の視点で物を見る③	ツーリズムの視点をどのように指導に生かすか（討論）	黒澤やよい
	妊娠中期における個別指	妊娠中期の保健指導案の作成	

第6回	導①	(出産育児準備、体重管理、母乳について、バースプラン)	黒澤やよい
第7回	妊娠中期における個別指導②	妊娠中期の保健指導ロールプレイ (出産育児準備、体重管理、母乳について、バースプラン)	黒澤やよい
第8回	妊娠中期～後期における個別指導①	妊娠中期～後期の保健指導案の作成 (貧血予防、早産予防、日常生活の動静)	黒澤やよい
第9回	妊娠中期～後期における個別指導②	妊娠中期～後期の保健指導ロールプレイと体験 (貧血予防、早産予防、日常生活の動静)	黒澤やよい
第10回	妊娠後期における個別指導①	妊娠後期の保健指導案作成とロールプレイ (腹部増大に則した日常生活の工夫、バースプランの確認、分娩前兆、入院の時期と方法、異常の観察)	黒澤やよい
第11回	妊娠後期における個別指導②	妊娠後期の保健指導案作成とロールプレイ (腹部増大に則した日常生活の工夫、バースプランの確認、分娩前兆、入院の時期と方法、異常の観察)、 産痛緩和法・分娩経過中の動静の体験学習	黒澤やよい
第12回	妊娠期における集団指導の展開①	妊娠6～7ヶ月を対象とした集団指導の企画と指導案作成	黒澤やよい
第13回	妊娠期における集団指導の展開②	妊娠6～7ヶ月を対象とした集団指導の企画と指導案作成	黒澤やよい
第14回	妊娠期における集団指導の展開③	模擬集団指導の実施	黒澤、木村、古賀
第15回	妊娠期における集団指導の展開④	模擬集団指導の実施 振り返り評価とまとめ	黒澤、木村、古賀
第16回	育児指導	育児指導の内容と方法/授乳指導(調乳指導含む)	木村優子
第17回	沐浴指導	沐浴指導の内容と方法(退院後の沐浴について)	木村優子
第18回	退院指導	退院指導の内容と方法	木村優子
第19回	母乳育児外来	退院後の母乳管理・母乳育児相談	木村優子
第20回	1か月健診時の指導	1か月健診時の指導内容と方法	木村優子
第21回	保健指導案の展開①	保健指導案・指導媒体の作成	木村優子
第22回	保健指導案の展開②	保健指導案・指導媒体の作成	木村優子
第23回	保健指導案の展開③	保健指導案・指導媒体の作成	木村優子
第24回	保健指導案の展開④	保健指導案・指導媒体の作成	木村優子
第25回	産褥期における保健指導の実際①	ロールプレイ(産褥期の保健指導のまとめ発表)	木村優子
第26回	産褥期における保健指導の実際②	ロールプレイ(産褥期の保健指導のまとめ発表)	木村優子
第27回	ライフサイクルにおける	思春期における保健指導、ピアカウンセ	古賀裕子

	保健指導①	リング、集団指導	
第28回	ライフサイクルにおける保健指導②	思春期における保健指導カウンセリング 講義・GW	古賀裕子
第29回	ライフサイクルにおける保健指導③	成熟期・更年期における保健指導カウンセリング 講義・GW	古賀裕子
第30回	ライフサイクルにおける保健指導④	成熟期・更年期における保健指導カウンセリング 講義・GW	古賀裕子

#### 教科書

日本看護協会出版会 助産師基礎教育テキスト 妊娠期、分娩期、産褥期 4, 5, 6, 7、医学書院 助産学講座5 助産診断・技術学Ⅰ

#### 参考書

マタニティサイクルの実践保健指導（妊娠期）鈴木由美、マタニティサイクルの実践保健指導（産褥期）鈴木由美、丸善プラネット出版、参加型マタニティクラスBOOK 戸田律子 医学書院

#### 成績評価

単位認定60点以上。筆記試験及び講義、グループワークにおける積極性等を考慮する。

#### 授業時間外の学習

課題をクリアするためには時間外のグループワーク、学習時間が必須。

#### 履修のポイント

情報や技術の提供を受ける人の立場に立って考えることができるよう、視野を広く持つこと。

#### オフィス・アワー

平日の16：30-18時



講義コード	80140001
講義名	助産管理
(副題)	
開講責任部署	別科助産専攻
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
区分	実践領域
必修/選択	必修
学年	

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 黒澤 やよい	指定なし

#### 授業の概要

助産業務・管理及び、病産院・助産所の運営の基本的理解と助産業務の評価を行い、調整できるための基礎を学ぶ。その上で具体的手法としての管理のプロセスと、産科を取り巻く状況について学ぶ。また実際にトピカルな出来事を管理の視点から考える討議する。

助産管理の実践的事項として、病院や助産所の管理の実際、地域における母子保健活動を中心にして広がる幅広い活動や、困難な活動、国際化に伴う活動、危機対応を通して助産管理の特徴、法的責任、職業的倫理性を学ぶ。(オムニバス形式) 災害時における助産師の焼く阿割と援助を学ぶことで病院での助産管理や地域における母子活動を理解する。

#### 教育目標

助産師として業務を遂行していく上で必要な基本的管理の原則、理念、法的責務、職業倫理の理解に基づき実際の病産院、外来、助産所での業務の展開について運営・評価・調整の基礎について理解できる。また、その時代が助産師に期待する困難な課題を含む役割についても認識できる。助産師として必要な基本的管理を理解し、災害時の母子ケアの実際や災害援助のための教育や訓練の必要性を認識できる。

#### 到達目標

1. 助産業務。管理の基本について、その特徴、法的責任、職業倫理を含めて説明できる。
2. 助産管理プロセスについて理解できる。
3. 産科病棟・外来、助産所の管理運営とその特徴が説明できる。
4. 現代社会が助産師に期待する様々な課題を含む役割期待を認識し、現状と将来に向けた対応を考えることができる
5. 助産師の就業継続や将来像について考えることができる。
6. 災害時、助産師としての役割と対応について考え、実践に役立てられる。

#### 授業計画

	主題	授業内容	備考
第1回	助産管理の基本	管理の基本概念とプロセス、助産管理の概念、助産と医療経済	黒澤やよい
		助産師業務における法的責任と義務：状況設定のもと、関連す	黒澤

第2回	助産業務と法律	る法律の適用を考える。(応召・証明書の交付・助産録の記載、届け出・秘守義務)	やよい
第3回	助産師主導分娩システムについて	院内助産・助産所開設における助産師の自律性と医療連携(妊娠管理、分娩管理、産褥管理)、	黒澤やよい
第4回	助産管理システムの構築	院内助産・助産所・総合病院産科病棟・産科病院開設に向けてのプロセス:各施設の特徴(法律、届け出、理念、方針、組織、業務体制、安全、災害対策、経費)	黒澤やよい
第5回	助産所における業務管理の実際①	助産所の定義、管理者と義務、ハートシステム、ソフトシステムについて	伊藤光代
第6回	助産所における業務管理の実際②	助産管理の基本、安全の確保、医療との連携助産所の管理運営の実際について(経営、運営、リスクマネジメント、医療との連携等)及びアメニティについて	伊藤光代
第7回	病産院における助産業務管理①	助産業務管理の過程(助産管理と助産業務管理、業務の査定、目標管理の実践プロセス、業務計画の策定、評価、目標設定)	塩田利江
第8回	病産院における助産業務管理②	助産業務管理の方法と実践(組織管理、書類管理、財務管理、業務の質について)	塩田利江
第9回	病産院における助産業務管理③	産科棟における助産管理(人員配置、看護体制、労働条件、就業規則、勤務計画、アメニティについて、クリティカルパスについて)	櫛田理恵子
第10回	病産院における助産業務管理④	産科棟における助産管理:外来の助産管理産科外来、助産外来、母乳外来、専門外来と助産業務管理	櫛田理恵子
第11回	助産所システムの構築①(演習)	助産所開設に向けてのプロセス演習(関係する法律、届け出方法、施設の理念・方針、組織、業務体制、安全・災害対策、経費バランスシート)、	伊藤充代
第12回	助産所システムの構築②(演習)	助産所開設に向けてのプロセス演習(関係する法律、届け出方法、施設の理念・方針、組織、業務体制、安全・災害対策、経費バランスシート)、	伊藤充代
第13回	周産期助産管理システム①	NICUにおける管理システム、母体搬送システム、オープンシステム	櫛田理恵子
			櫛

第14回	周産期助産管理システム②	周産期の医療事故とリスクマネジメント（周産期医療事故、助産業務におけるリスクマネジメント）	田理恵子
第15回	災害と助産師	1. 災害とは 2. 災害時における看護 3. 災害時母子ケアの実際 4. 被災地の心的反応に対するケア	塩田利江

#### 教科書

医学書院 助産学講座10 助産管理 我部山キヨ子ら編、講師により自作資料

#### 参考書

日本助産師会 助産業務ガイドライン2014（HPからダウンロードしたもの/助産診断学、技術学でも使用）

#### 成績評価

単位認定60点以上。出席・客観的試験（80%）、レポート（20%）による。

#### 授業時間外の学習

助産管理の実際と病院・他施設等の助産活動の場を通して理解していく。

#### 履修のポイント

自律した助産師活動の要として位置づけられ、専門的助産技術の展開とは表裏一体をなしている点を理解できる。

#### オフィス・アワー

平日の16：30-18時

講義コード	80150001
講義名	助産学実習
(副題)	
開講責任部署	別科助産専攻
講義開講時期	通年
講義区分	実習
基準単位数	11
代表曜日	
代表時限	
区分	実践領域
必修/選択	必修
学年	

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 黒澤 やよい	指定なし

#### 授業の概要

\*産科棟実習においては正常が予測される妊産褥婦及び新生児を受けもち、一連の助産過程を通して援助を展開し、評価、考察を行い次のケアへとつなげる。  
 \*分娩期においては10例の分娩介助を行い、それぞれの分娩、産褥、新生児などの助産過程が展開できることを目標とする。また、そのうち1例は妊娠中期以降、可能な限り長期に受け持ち、産婦に合わせて分娩期に寄り添い、分娩介助後は退院迄及び1ヶ月健診までの母児の健康診査を行い、助産過程を展開する。  
 \*リーダー又は師長の業務観察を通して、日常の助産管理の実際を学び、カンファレンス後、レポートにまとめる。  
 \*実習中に経験した事例の助産過程をケーススタディにまとめ、発表し学習を深める。ケーススタディは助産学実習終了後1か月を締切とする。  
 \*地域母子保健では家庭訪問や助産施設で実施している母子訪問などに参加し、地域母子保健の実際を学ぶ。一方で地域の妊婦とその家族を対象に集団指導を1クラス担当して実施する。  
 \*助産管理、助産業務及び助産所の運営の基本的理解と助産業務の評価を行い、管理、調整の実際を学ぶ。助産所実習報告レポートを作成し、報告会で学びを発表し共有する。

#### 教育目標

学内で学んだ理論と技術をふまえ、臨床における助産の診断・実践領域の体験学習を通して、助産師としての実践能力を養うとともに専門職業人としての態度を身につける。

#### 到達目標

1. 妊娠期では妊婦の健康診査に必要な助産技術、分娩期では産婦の分娩介助を中心とした技術、産褥期、新生児期では産後の母体、新生児観察のために必要な助産技術を習得する。
2. それぞれのEBMを理解し、助産診断に基づいて実践できる。
3. 妊娠期では超音波断層撮影を体験する。
4. 異常、緊急時における技術を学び、具体的なイメージがわかる。
5. 地域における保健医療チームと助産師の連携、役割と責務を理解し、活動に参加し、実践できる。

#### 授業計画

#### 教科書

医学書院 助産学講座6,7,8 助産診断・技術学Ⅱ（妊娠期、分娩期、産褥期）我部山キヨ子ら編  
 プリンシプル産婦人科学 武谷雄二他  
 助産学講座3 基礎助産学3 母子の健康科学

<b>参考書</b>
助産師のためのフィジカルエグザミネーション、大石時子 医学書院 写真でわかる助産技術 平澤美恵子 インターメディカ
<b>成績評価</b>
単位認定60点以上。 分娩介助の実技テスト(分娩介助)と筆記試験を行う。
<b>授業時間外の学習</b>
時間外の実習時間も必要となる。
<b>履修のポイント</b>
助産学実習で用いる技術として必修項目である。演習時は白衣着用で身だしなみも注意すること。
<b>オフィス・アワー</b>
実習時間内に相談を行うこと。

講義コード	80160001
講義名	助産研究
(副題)	
開講責任部署	別科助産専攻
講義開講時期	通年
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
区分	総合領域
必修/選択	必修
学年	

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 黒澤 やよい	指定なし
教員	石井 広二	指定なし
教員	木村 優子	指定なし
教員	古賀 裕子	指定なし

#### 授業の概要

助産学に貢献できる研究（正常領域の妊産褥婦、母性看護、助産学、ウィメンズヘルス等）について考える。助産の視点から研究の意義を理解し、研究の一連の過程を体得する。この科目は通年でありつぎのように進める。①文献を読み、自身に関心を持てるテーマを見出す。②研究者としての倫理観を身に付ける。③データ収集・分析の方法を知る。④文献研究・ケーススタディをまとめ発表する。

#### 教育目標

助産学に貢献できる課題を見出し、倫理的に配慮しながら研究の一連の過程を体得する。文献レビュー/クリティークを通して論文の作成、発表、抄録の作成も体験する。

#### 到達目標

1. 助産学に関連した研究の目的、意義がわかる。
2. 助産学における研究のテーマが設定できる。
3. テーマに沿った文献の検索ができる。
4. 検索した文献をクリティークできる。
5. 研究の手続きを知る。
6. 十分な倫理的対処がわかる。
7. 方法に合ったデータ収集ができる。
8. 適切な分析方法を用いて結果を抽出できる。
9. 一連の過程を経て論文が作成できる。
10. 効果的な口頭発表の方法がわかる。

#### 授業計画

	主題	授業内容	備考
第1回	助産研究の概要	助産師と研究について/研究テーマの検討について/研究の方法について	黒澤やよい
第2回	文献検索	文献の検索方法と収集	黒澤やよい
第3回	研究と倫理	研究者としての倫理的配慮について	木村優子

第4回	質的文献クリティーク	質的研究の方法、特徴について	黒澤やよい
第5回	質的研究	事例を用いて質的研究のラベルワーク (GW) 演習	黒澤やよい
第6回	量的文献クリティーク	量的研究の方法、特徴について	古賀裕子
第7回	量的研究	事例を用いての検定演習	古賀裕子
第8回	データ処理について①	量的研究の単純集計集計について (主にExcel) 演習	石井広二
第9回	データ処理について②	量的研究の単純集計集計について (主にExcel) 演習	石井広二
第10回	文献研究	文献研究の進め方、研究計画書の作成	黒澤やよい
第11回	ケーススタディ	ケーススタディについて/ケーススタディのまとめ方	木村優子
第12回	研究の実際	文献研究のまとめかたとプレゼンテーション	黒澤やよい
第13回	研究のまとめ①	ケーススタディ発表会 (発表時間1人10分/質疑応答10分)	黒澤、木村、古賀
第14回	研究のまとめ②	ケーススタディ発表会 (発表時間1人10分/質疑応答10分)	黒澤、木村、古賀
第15回	研究のまとめ③	ケーススタディ発表会 (発表時間1人10分/質疑応答10分)	黒澤、木村、古賀

#### 教科書

医学書院 黒田裕子の看護研究 Step by Step (4版)、その他配布資料に基づく 医学書院 助産学講座 1 基礎助産学 助産学概論、我部山キヨ子ら編

#### 参考書

照林社 わかりやすいケーススタディの進め方、松本孚、森田夏実編 日本看護協会出版会、よくわかる看護研究論文のクリティーク、山川みやえ他

#### 成績評価

単位認定60点以上。  
研究計画、文献検索、クリティーク、文献研究論文で評価。文献研究は助産学実習開始前、または助産学実習終了2か月後を締切とする(担当教員が提出日を指定する)。ケーススタディは助産学実習終了後1か月を締切とする。

#### 授業時間外の学習

課題をクリアするためには時間外のグループワーク、学習時間が必須。時間調整をし、文献検索、分析などを行うこと。  
文献研究は担当教員と連絡を取り合い、各自研究を進める。

#### 履修のポイント

助産学に貢献できるテーマの設定、目的、方法、倫理的対応、研究計画書、計画書に基づいた実施、ケーススタディのまとめ方の習得

#### オフィス・アワー

平日の16:30-18時

講義コード	80170001
講義名	不妊とケア
(副題)	
開講責任部署	別科助産専攻
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
区分	総合領域
必修/選択	必修
学年	

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 黒澤 やよい	指定なし

#### 授業の概要

晩婚化・少子化などの社会的事情により不妊治療への関心が高まる中で、不妊カップルの現況を理解し、個々の対応に求められる助産師の役割を学ぶ。生殖補助技術(不妊治療の体外受精等)を用いた不妊治療の概要を学ぶ。

#### 教育目標

不妊症のカップルを取り巻く背景と不妊治療の現状を理解し、看護の方法を学ぶ。不妊治療にかかわる技術の実際を学び、臨床に生かす基礎を学ぶ。

#### 到達目標

1. 不妊カップルを取り巻く社会的状況を知る。
2. 不妊治療にかかわる技術の実際を学び、臨床におけるサポートに必要な知識を習得できる。
3. 女性のライフサイクル(特に不妊)に沿った看護ができる。

#### 授業計画

	主題	授業内容	備考
第1回	不妊治療をめぐる諸事情①	不妊症とは、不妊症の頻度と原因、不妊治療の方法	黒澤やよい
第2回	不妊治療をめぐる諸事情②	不妊治療に伴う身体的影響、経済的背景	黒澤やよい
第3回	不妊と生命倫理	子どもを生む選択・子どもを育てる選択	黒澤やよい
第4回	不妊症の検査と治療	不妊治療の現状と不妊予防のための知識整理	荒木康久
第5回	不妊症の治療	生殖補助医療の実際	荒木康久
第6回	不妊症患者の背景	不妊患者の心理・社会的背景について	岡崎由香
第7回	不妊症の看護(1)	受診前、初回受診時、検査時、治療時、治療終了時の看護	岡崎由香
第8回	不妊症の看護(2)	不妊治療後の妊産褥婦の看護	岡崎由香

#### 教科書

助産学講座2 基礎助産学 母子の基礎科学 医学書院、我部山キヨ子ら編



参考書
不妊治療ガイドンス 医学書院、生殖補助医療技術学テキスト 医歯薬出版
成績評価
単位認定60点以上。出欠と記録物、及び筆記試験、グループワークにおける発言の積極性、講義における積極性等も含めて60%以上の水準に達していること。講義、GWの取り組みなどの姿勢も考慮する。
授業時間外の学習
新聞や報道等の時事問題に目を向ける。関連した体験記等の書籍を読む。
オフィス・アワー
9～18時の研究室在室時。kurosawa-ya@kiryu-u.ac.jp